

コーポレートファイナンス論		講義	教授 丸山 高行	
科目カテゴリー	会計ファイナンスコースの 専門選択科目 経営・経済コースの専門選 択科目 教職科目	科目ナンバリング	23022205 25320227	

### 1. 授業のねらい・概要

この科目は、経営学基礎の続編と位置付けられる。経営学基礎では、企業（株式会社）を生み、育て、成長させるという、一連のプロセスの基本的な構造について学修したが、本科目では、こうしたプロセスを財務面（ファイナンス面）からさらに深く考察する。具体的には、資本増強の諸手段の基礎知識とともに、B/S・P/L、さらにはキャッシュフロー計算書を組み合わせた実践的な財務諸表分析の知識を身に付ける。また、最適資本構成や資本コスト、企業価値評価など、コーポレートファイナンスの先端的かつ理論的な領域にも、積極的にアプローチする。

### 2. 授業の進め方

毎回の授業は、レジュメや配布資料等に基づき講義形式で行うが、一方通行の授業ではなく随所でケース・スタディを提示し、相互ディスカッションを含め、共に考える時間をとるようにする。また、毎回、その日の授業で学習した内容に関する課題として3問程度練習問題を提示し、授業内容の理解を進める。教室での受講に加えて、この課題の期限内提出をもって授業への出席とカウントするとともに、期限後、Google Classroomに課題の解説動画をオンライン配信する。

### 3. 授業計画

1. イントロダクション	9. 最適資本構成の理論
2. 経営学基礎の復習（株式会社の設立手順）	10. 資本コストの考え方
3. 経営学基礎の復習（財務諸表分析）	11. NPVとIRR、企業価値評価
4. スタートアップ・ファイナンス	12. EBITDAとROIC
5. 銀行借入と社債発行	13. キャッシュフロー分析の重要性
6. 増資と減資	14. リスク・マネジメント
7. 株式の公開・上場	15. コーポレートガバナンス
8. 株式の分割と併合、M&A	

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

レジュメは、1回の授業につき、パワーポイントのスライド12枚が提供される（コーポレートファイナンス論全体で180枚）。スライド12枚は、基本的に毎回の授業テーマに沿った図表と、図表に関する解説文から構成される。さらに、レジュメには、図表の出典および関連する資料や参考文献へのリンクが貼り付けられている。受講者は、レジュメの内容を理解し、関連資料や参考文献にもアクセスして必要知識を整理するとともに、課題の解説動画を視聴することによって、毎回、1時間程度の復習を行うことが望ましい。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題については、上記の通り、Google Classroomに解説動画を配信する。期末試験は、課題（4問程度）にレポートの提出を加える形で行う。期末試験についても、終了後、解説動画を配信するので、解答が不充分だったところは直ちに復習しておくこと。

### 6. 授業における学修の到達目標

コーポレートファイナンス論の基礎が、論理的かつ体系的に身につくことを目標とする。また、現実の企業の財務戦略を幅広く取り上げ、株価、さらには企業価値との関係になるべく具体的に考察して行くので、関心のある業界や企業について、より深く研究しようという意欲が高まることを期待する。

### 7. 成績評価の方法・基準

授業への取組み姿勢（20%）および定期試験の結果（80%）によって、評価する。

#### **8. テキスト・参考文献**

毎回の授業で提示するレジュメが、テキストとなる。また、レジュメの中で、適宜参考文献を紹介する。

#### **9. 受講上の留意事項**

必修科目として学んだ経営学基礎および経済学基礎の知識を前提に授業を進めるので、しっかり復習しておくこと。また、コーポレートファイナンス論の知識は、多くの経営学関係の科目を理解する上でのベースとなるが、特に証券投資論、経営組織論、経営戦略論、国際経営論と関係が深いので、できればセットで受講することが望ましい。

#### **10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当する。本授業は、金融機関における実務経験を活かして指導する。

#### **11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。